

就職試験を迎えるにあたり
(3年生)
インターンシップを見据えて
(2,1年生)



プロフェッショナルとアマチュアの差とは？

好きな仕事、やりたい仕事に就くことは理想ですが..

しかし！

嫌なこと・やりたくないこと・ハラの立つことが存在するのも現実

⇒いくら好きな仕事に就けたとしても(または望んだ学校に進学しても)

だからこそ社会人となれば**プロ意識・責任・使命感・誇り**が必要となります

⇒全ては「自分以外」という視点・発想・考えから生まれます

！私的にやりたくなくとも「プロ」ならやらねばならぬことがある！

私人として“やりたくないこと”と公人として“やらねばならぬこと”は分けて考えなくてはならない

なぜなら...

その立場を**選択したのは自分**であり、**影響を受けるのは他者**であるから

(↑※他者=同僚・顧客など ※相手=所属先・出資者など ※報酬=給料↓)

その立場で**報酬を得ている自分**なら、**相手の要望を叶える責務**があるから

ゆえに...

⇒ **【自分の働く条件】**ばかりを優先する甘い考えをしない

⇒ **【働く環境を提供・共有する同僚】**の立場を理解する

⇒ **【働きへ対価を払う相手】**の要望に応える努力をする

⇒

三者の調和がとれるプロ

を目指べき！

就いた職の中で【好きなこと・得意なこと】しかやらず

(将来職についた時、この考えを止(や)めるか、その職を辞(や)めるかを選択して下さい。迷惑です。)

【嫌なこと・やりたくないこと】と避け文句を言うのはアマチュアと心得よ。

(その嫌なこと・やりたくないことを、あなたの替わりに行っている人(プロ)が必ず存在します。)

今回は久々に執筆者の実体験を掲載してみます。新作です..(^^;)

最初は[配達助手]のアルバイトだった。配達物が[酒類・飲料]なので“破損”はある程度仕方がなかった。たまに“破損”をしても[運転手・配達責任者]である**正社員**は「気をつけろよ」としか言わなかった。

ただ、一本3.0万円以上する洋酒には絶対に触れさせてもらえなかった。その酒は常に荷台ではなく車内に、常に彼自らの手で、常に最後に積み込まれていた。納品も彼自身が取引先の人間に直接手渡して行われた。「信用されてないのか？」と、その時は少し不満だった。

しばらくして自分も正社員となった。[運行課長]からこう言われた。「今日から君も正社員だ。会社が“破損”を費用として計上できるのは一台につき3万円までだ。意味わかるな？」

後々自分にもアルバイトの[助手]がついた。とても真面目でいい奴だった。しかし、先輩と同様“洋酒”だけには絶対に触れさせなかった。それが彼のためでも、自分のためでもあることに、立場が変わったからこそ実感できた。